

2023年度  
活動報告会&交流会報告書



2023年2月23日（金・祝）

10:00～15:00

スカウト会館3階

ガールスカウト神奈川県連盟

## 2023 年度 活動報告会 & 交流会 実施報告

日時： 2024 年 2 月 23 日（金・祝）

10：00～12：00 活動報告会

13：00～15：00 年長スカウトとユース年代の交流会

場所： スカウト会館 大会議室

参加人数： スカウト・リーダー・理事・委員会 62 名

### プログラム

時間	プログラム	内容
9：00	スタッフ集合	会場設営・機材準備
9：40	受付開始	開場
10：00	開会式・発表	連盟長挨拶 1. 18団 団活動報告 2. サンガム タレプログラム参加 3. レンジャー全国キャンプ 4. 南関東地区シニア部門事業 5. ガールズメッセ参加 6. 世界会議報告 7. ChipCamp 8. 53団 ぼうさいマップ 9. かながわ sisters
12：15	閉会	副連盟長挨拶
	昼食	
13：00	交流会	シニア・レンジャーとユース年代
15：00	終了・解散	

## 1. 団活動報告（18 団）

団でのキャンプの実施、ユニセフ募金、クリスマス会などの様々な活動についてそれぞれの部門から発表しました。

18 団では年に 10 回以上キャンプがあるのは「あたりまえ」となっており、戸隠キャンプ、ハロウィンキャンプやスキーキャンプなど団以外の仲間との交流を通じて、様々な学びや喜びがありました。

それぞれの活動で、自分たちで考え行動する事例を共有し、シニアはハロウィンキャンプの実行委員として活動したことで、今後、「自分の発言や行いに責任をもって行動する」「最後まであきらめずにやりたいことを実行する」「仲間と協力して、物事を判断する」などの目標ができました。



### 実行委員を務めてできるようになったこと

・自分の考えを表現できるようになった。  
例えば、〇〇したい。〇〇の方がいいと思う。などを伝える

・外国語を話す人に対して伝えたいことを伝えるように工夫することができるようになった。

例えば、ジェスチャーを使ったり、単語を並べて伝えようとする気持ちを大切にしました。

### （報告の感想）

ブラウニー、ジュニア、シニアの発表がありました。年 10 回はキャンプがあるとの発表があり、とても驚きました。ユニセフ募金では自分達でおった折鶴をお礼に渡し、クリスマス会でのケーキ作りではアレルギーにも気をつけて作成する、スキーキャンプでの楽しい様子の発表がありました。

シニアはハロウィン実行委員会、USA との交流、その中で今後につけていきたい事を述べていました。充実した団活動の様子を感じました。

## 2. サンガム タレプログラム参加（33 団 南智笑莉）

2023 年 2 月にワールドセンターの一つであるサンガムが実施する、コミュニティリーダーシップを学ぶプログラムのタレプログラムに参加しました。サンガムのコミュニティパートナーとしての取り組みに参加し、学校に行けない子どもたちに勉強を教えるお手伝いをしました。

また、子どもたちに世界について教えたり、日本語の歌を教えました。

仲間と協力する事がなかなかできない子どもたちが多かったので、ゲームを通じて仲間と協力をできるような働きかけをしました。

逆に、現地の文化も教えてもらうことで、自分たちの文化のすばらしさを感じてもらえるようなこともしました。

子どもたちは、機会には恵まれていないが、とても自分のことを知ってもらうように積極的なのが印象的でした。

言語が通じない相手とどのようにコミュニケーションをとるか。

子どもたちのことをよくみて、どういうことが必要かを考えて行動することなどをこの体験を通じて学びました。

もっと、サンガムの活動に日本から参加してほしいと思ったので、自分自身が、参加したいと思う方の背中を押す活動をしていきたいという気持ちが強くなり、自分の経験を様々な場所で話していきたいです。

## 2. タレプログラムについて

コミュニティパートナー

- 学校に行くことや家庭学習が困難である移民工事現場労働者の子どもたちを支援
- 移民工事現場労働者の子どもたちのための託児所・保健指導
- ムンバイとブネーで活動

TABLE CHECKS PUNE  
Mumbai - Pune Chapter of Girl Scouts of India

## 6. 滞在を通して学んだこと

- 文化の違う相手と信頼関係を築くこと
- 「想定外」を理解し楽しむこと
- 状況を観察し考えて行動すること
- 先読みして行動すること
- 感じたことを自分の言葉にしない限り何も学べないこと
- リーダーシップ

(報告の感想)

ワールドセンターを身近に感じることができ、沢山の学びがあったことが熱く伝わる発表でした。この体験を多くの人に伝え、世界へ視野を広げること、そしてガールスカウトの価値を広げ伝えてもらえる若い力に期待したいです。

### 3. レンジャー全国キャンプ

(3 団 森絵万・6 団 富田かれん・14 団 小竹真央)

2023 年 8 月 11 日～15 日、戸隠ガールスカウトセンターで行われたレンジャー全国キャンプに参加しました。参加者は総勢 140 人。

全国のレンジャーに会ってみたい、野外キャンプの知識と経験をもっと積みたいなどという思いから今回のキャンプに参加しました。

おいしい空気と見渡す限り緑が一面。これだけの自然の中で過ごすのは久しぶりだったので、ドキドキ、わくわくしていました。

苦手だった A テントの設営も同じパトロールの仲間と協力することで、やりとげることができました。選択プログラムや自分たちで作るキャンプファイヤー、食材だけを配給されて、自分たちで献立を考えて作る野外料理など、たくさんの経験をしました。

このキャンプを通して、全国にたくさんのレンジャーの友達ができ、やっぱり自分はガールスカウトが好きだと感じるすることができました。

自然な資源の大切さを再認識できたので、食材を無駄なく使う、水を大切に使うなど、できることから行動したいと思いました。

団のスカウトに今回の経験を共有し、今まで知らなかった自分に出会える機会なので、自分の成長の道を作ることができると感じました。  
なので、一度は自分の知らない外の世界に自分から飛び込んでみて！！と伝えていきたいです。



(報告の感想)

台風の影響でプログラムの変更があり、苦労もあったようですが、パトロールメンバーと仲良く楽しんだ様子が伝わりました。高校生年代は時間にも余裕がない中で、スライドを作成し、事前のオンラインで打ち合わせ、リハーサルをしてとても熱心に取り組んでいたと思います。

感想を述べるだけではなく、今後の活動に対する思いなども報告をしていました。全国キャンプならではの貴重な体験となったようで、参加することができて良かったと思います。

\*\*\*\*\*

ソング (野尻副連盟長)

♪ 世界連盟歌

\*\*\*\*\*

#### 4. 南関東地区シニア部門事業 (8 団倉本紗栄・6 団高尾真由)

2023 年 10 月 8 日・9 日に千葉県立手賀の丘少年自然の家で行われました。  
心の救急箱を作ったり、講演で性教育はなんのためにあるの？ジェンダーってなに？などについて学び、みんなでしっかり学ぶことが大切だと感じました。

「えんたくん」とよばれるツールを使って、みんなの意見を出し合い、出た意見に対して話を発展させるなどしました。「私もそれ思った！」「それ面白すぎ！」など、相手の意見に対して気軽にコメントすることができとっても楽しかったです！！これからの話し合いの場でも使ってみたいなと思いました。

また女性の体の仕組みや生理について知り、プライベートパーツなどについても考えました。

これからも「自分を守る」ために、深く広く知識を身につけていきたいです。また、今回学んだことは多くの人に知ってもらいたいことなので、広める活動をしていきたいなと思いました。

### 【生理の仕組み】

- ①女性ホルモンが脳や卵巣から分泌される
- ②卵子が排出され、それと同時に子宮膜が厚くなる  
子宮内膜が赤ちゃんのベッドとして使われない場合↓  
(精子と受精した時に妊娠する)
- ③子宮内膜が剥がれて体外に流される→これが生理の時に出る経血！  
人によっては子宮内膜が剥がれた時に痛みを感じることもある  
→生理痛と呼ばれる！



※詳しく知りたい人や不安などがある人は学校の保健の先生やお母さんに聞いてみてね！

講演を聞いて学んだこと  
性教育はなんのためにあるの？



人が幸せに生きるため

みんなでしっかり学ぶことが大切！

日本は最下位に近い！！

ジェンダーってなに？

社会的な性の差別のこと



### (報告の感想)

自分のからだ性と性のこと、という大切で難しいテーマに同年代の仲間とともに取り組み、講師の話聞くだけでなく自分たちで考え、話し合えたことがシニアにとってとても良い経験になったことがよくわかる報告でした。

知ること、繰り返し学ぶことが自分たちにとって必要なことだと体感したり、自分のからだ性と性のこと身近な問題と思えたことなど、シニアにとって貴重な体験になったと良くわかりました。

## 5. ガールズメッセ (56 団 内田愛央)

2023年10月22日に、表参道の国連大学で行われた体験に参加しました。ガールスカウトロボティクスバッジプログラムとして、「ロボットの体験をしてみよう」のもと、針金をタイヤの代わりに動かすロボットを作りました。飛び跳ねるような動き方をするロボットで、針金の足の部分は好きなように作り、最後にレースをしました。

東京工業大学・いわつきのぶゆき先生に教えて頂きました。いくつかのロボットの紹介がありその仕組みを学び、先生は丁寧に説明してくれました。

取材カメラが入っていて、少し緊張したけれど、とてもいい体験ができました。



### (報告の感想)

参加したジュニアスカウトは、ロボット工学が世の中のどのような場面で活躍しているのか、またロボットの仕組みを学び、実際にオリジナルロボットを作って競争をしたが、残念ながら優勝は出来なかったようです。

しかし、動くロボットを自分で作れて、楽しかった様子が発表から読み取れました。今後もいろいろなことに挑戦してほしいと思います。

\*\*\*\*\*

## 休憩

\*\*\*\*\*

## 6. 世界会議報告（6団 川邊早織）

2023年7月25日（水）～31日（月）の7日間、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟（WAGGGS）の第38回世界会議が行われました。今年は、キプロス共和国ニコシアにあるヨーロッパ大学キプロス校を拠点として開催され、日本連盟派遣団の青年代表として、オブザーバー参加しました。


羽田発2時間遅れによりドバイで乗り継ぎできず、ドバイに一泊することになったトラブルもありましたが、焦らず対応するのが重要！だと感じ、こうしたことを乗り越えることによって自信にもなると思いました。

今回の会議で「ユース世代として何をすれば、自分にとってもガールスカウト活動全体にとっても意義のあるものになるか」などについて議論をしました。様々な国の仲間が集まり、価値観の違いを感じるとともに、同じ課題を抱えている共通する部分も多くあり、とても貴重な経験でした。

今回参加して、オブザーバーに選んでもらったことで、そのチャンスがあるということが、若い年代が活躍できる未来はあると思っています。やる気ある若い世代に活躍してほしいとみんな思っているはずなので、若い年代の活躍のために、声をあげてみる事が大事だと思います。

ユースイベント

- ・会議参加者のなんと39%がユース年代！
- ・翌日に控えた本番に向け、模擬投票や、ワークショップなどを実施しました。
- ・10代の参加者も少なくなく、みんな積極的に発言していました。
- ・ビーチまでのパレードは、忘れられない思い出に。



会議全体を通して

ユースイベントが初日にあった事で、(特に)AP地域のユース世代の仲間との繋がりを強められ、会期中お互いに支えあったり、熱く議論を交わすことができました。



### （報告の感想）

世界会議の報告を聞いて、特に参加していたシニア・レンジャーが興味深く聞いて反応していたのが、とても印象的でした。たくさんの質問がスカウトからあがってお

り、川邊さんのようなロールモデルになるような活躍を身近に感じることが刺激となって、若い世代の活躍に期待できるように感じました。

## 7. Chip Camp 報告 (3 団 上野恵)

2023 年 3 月 31 日～4 月 2 日に「女性エンジニアを育てる」という目的で、国立江田島青少年交流の家にて開催されました。神奈川県からは 3 名が参加しました。この事業は、広島大学（協力）とマイクロン財団（協賛）の協力のもと実施されました。

### 1 日目

Session 1 粘土でウエハを作ろう

Session 2 アイデアソンタイムで未来の学校を考えよう

ラズベリーパイ（基盤）で doodle bot を作ろう

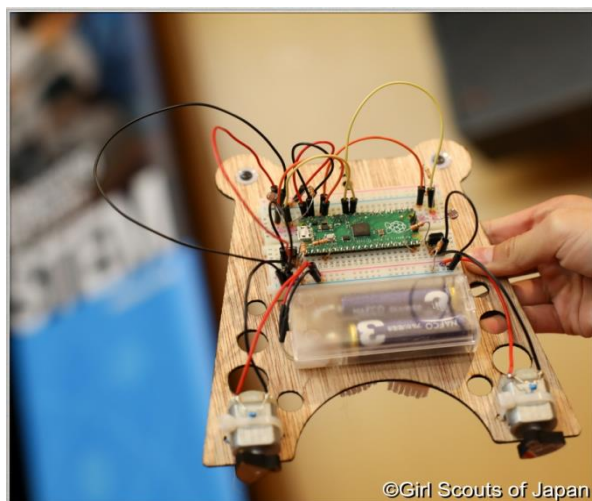
### 2 日目 マイクロン工場見学

女性エンジニアの方から話を聞きました。

今回の経験は、新しいことを学べるよい機会となり、全国キャンプならではの他県との交流ができました。

参加後、団の中でロボットなどを知ってもらおう集会を企画しました。

全国のスカウトと交流して視野を広げることができました。



### （報告の感想）

ジェンダー問題についてガールスカウトでも取り組んでいますが、比較的「理系=男性」というイメージが強かった分野で未知の世界のような言葉を使い、イキイキと発表するシニアスカウトがとても頼もしく見えました。

自分の団に戻ってほかのスカウトたちにロボットに触れる集会を行ったりと、自ら学んだことを他の人たちに伝えられる発信力も素晴らしいと感じました。



## 8. ぼうさいマップ (53 団)

53 団では活動の 1 つとして、ブラウニーとジュニアを対象に長年継続してぼうさいマップ作りに取り組んでいます。

災害を想定して街を歩き、安全・危険・役に立つの視点で気づいたことを写真に撮ったり、地域の人にインタビューしたりしながら言葉にまとめ、マップにしていけますが、マップの完成だけが目的ではなく、実際に災害が起きた時に私たちに何ができるのかを考えるきっかけにもなっています。完成したマップは、日本損害保険協会主催の「ぼうさい探検隊マップコンクール」に応募しています。

紙で作るマップからタブレットで作るデジタルマップに取り組むようになりました。こうした活動が認められ、2023 年度小学生のぼうさい探検隊マップコンクール デジタルマップ特別賞を受賞することができました。

ぼうさいマップの活動は、ガールスカウトのモットーである「そなえよつねに」を体験を通して考えるのに適した活動だと思います。

災害時を想定した街歩きとマップ作りでは、物・体力・心構えなどの備えが大切なこと、備えは常にバージョンアップすることも必要だということに気づくことができました。そして、災害について体験から学ぶことにより、今起きている災害の支援活動にも、より意味合いを考えながら参加できるようになれたらよいと考えています。



### (発表の感想)

街を探検する事で普段は気づかない災害時に避難できる場所や施設、また危ない場所を発見し危険箇所にはどう対処すれば、より良い街になるかを考える事はガールスカウトの「そなえよつねに」へ、つながる活動だと思いました。毎年、日本損害保険協会主催の「ぼうさい探検隊マップコンクール」へ応募され今年度は 1700 を超える応募の中から「デジタルマップ特別賞」を受賞。長年継続して活動するには指導者の「時代の流れに合わせた対応」も大きいと感じています。

## 9. かながわ sisters

2023年2月23日に「年長スカウトとユース年代の交流会」で、参加者の希望により誕生したグループです。現在、合計90名がかながわ sisters に登録しています。目的は、シニア・レンジャー部門のスカウトとユース年代が自発的に楽しい活動をして登録を継続することです。ヤングリーダーがロールモデルとなり、”憧れのお姉さん”と一緒に活動することを目指しています。

今までの活動として、2023年9月23日～24日にお泊りプロジェクトを実施しました。プログラムも自分たちで決めて、ご飯の食材調達も自分たちで行いました。自分たちで企画し、実施することで、失敗もありましたが、多くの気づきや学びがありました。

これからも、自分たちがやりたいことを企画し、活動していこうと思っているので、さらなる仲間を募集しています。

興味がある方は、ぜひ参加してください。

### お泊り プロジェクト

2023年9月23日～  
2023年9月24日

三ツ沢青少年センター



### 交流



## （報告の感想）

笑顔一杯の活動の報告で、団や地区を超えて誕生したグループの様子が分かりました。スカウトによるスカウトの為の活動がスカウトのモチベーションにつながり年長スカウトの継続率アップとなることが期待できる報告でした。

## <交流会>

これからみんなでやってみたいことを考える機会として交流会を行いました。アイデアを出し合い「えんたくん」という円形の段ボールの上書き込み、回しながら他の方の意見に追記したり、賛同するなど、お互いの想いや意見を聞き、アイデアを膨らませながら意見交換をしました。

- ・参加者 24名  
↳スカウト 17名 成人 7名

### \*次年度やりたいことのアイディア

- ・SNS 運用し、情報発信をしたい
- ・神奈川県連盟の戸隠キャンプにかながわ sisters のブースを作る
- ・スカウト会館イベントでのお祭りにかながわ sisters としての出店を行う  
↳フリーマーケットの開催  
クッキーの作成、販売  
屋台として食べ物の出店など



## 編集後記

2023年度の活動報告会では、多岐にわたる報告を聴くことが出来ました。

今年度は、すべての報告が対面での実施となりました。どの報告でも、沢山の写真と詳細なスライドを準備し発表に臨んでいました。この一年間で学んだことを聞くことが出来、得た学びを今後どう活かしていきたいかといった展望まで、自分たちの言葉で発表いたしました。スカウト活動の基幹をなす団活動では様々な工夫が見られました。自団のスカウトの特徴に合わせた活動を考え実施している様子や、また季節に合わせたキャンプを企画するといった豊富な企画力がうかがえました。

そして質疑応答においては、積極的に質問を投げかけるスカウトたちの様子が見られました。実体験の生の声がスカウトたちの意欲を引き出し、さらなるスカウト活動への関心と継続を確かなものにする会となりました。

報告会の後には、昨年に引き続きシニア・レンジャー向けの交流会を実施しました。学業や習い事等で多忙な中でも、県内のシニア・レンジャーたちが横のつながりを持てる機会を設けました。普段はSNSやオンラインでつながっているスカウトたちが、対面で話し合い交流を深められる時間となりました。この交流がスカウト活動の継続に繋がり年少スカウト達のロールモデルになってくれることを祈るばかりです。

次年度の活動報告会は、日頃ご支援を頂いている方々など団外の方々にも活動をご紹介出来る様に企画したいと思います。

スカウト活動委員会